

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]		採点上の注意	配 点
問一	ア きゅうせいきゅうれいせんめい			各 2 × 5
	イ らっかん			
	ウ ぐせいなん			
	エ らもんけん			
	オ べいふつ			
	ア 短冊			各 2 × 5
	イ 折帖			
	ウ 卷子本			
	エ 伊都内親王願文			
	オ 粘葉本和漢朗詠集			
問二	ア 起筆の際、穂先が線の外側に現れる用筆法。			各 3 × 5
	イ 天然の外壁や巨石に碑文や経文、仏像などを刻したもの。			
	ウ 書の上に敷いた薄紙に筆跡の輪郭を写し取り、その中を墨で塗りこめるによる複製制作の方法。			
	エ 二文字以上を続け書きすること。			
	オ 肘を宙に浮かせて構える方法。			
	① 天地玄黄			各 5 × 2
	② 金生麗水			
問三	ア 大唐三藏聖教序			各 3 × 5
	イ 大唐皇帝述三藏聖教序記			
	ウ 集王聖教序			
	エ ② 転 ③ 双 ④ 宝 ⑤ 盖			
	オ ・蔵峰の起筆が見られ、点画の形や方向の変化などの特徴に行書的な用筆が表れている。 ・雁塔聖教序は、楷書でありながら、篆隸行草の用筆を含み、直筆側筆・蔵峰露鋒・俯仰などのあらゆる用筆で変化の妙を駆使している。			100
	ア 寸松庵			
	イ 古今和歌集			
	ウ 散らし書き			
	エ 紀貫之			
問四	ア 繼色紙			各 2 × 3
	イ 升色紙			
	ウ 盤留者春久止毛			
	オ 梅の香を、燻香のように袖に移して、もし留めることができたならば、たとえ春は過ぎ去っても、この香が春の形見となろう。			
	ア 古今集 もよい。			
	イ 集字聖教序、七仏聖教序 もよい。			
	ウ 順序は問わない。			
	エ 各 1 × 7			
	オ 内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてもよい。			
	ア 各 2 × 2			

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]		採点上の注意	配 点
一 問七	ア	書道において古人の筆法を習うことは容易であるが、独自性を出すことは難しい。	内容を正しく捉え ていれば、表現は異 なっていてよい。	4
	イ	墨は古すぎると膠が死んでしまって字に輝きがなく、新しすぎると膠が重くて筆が伸びない。ただ数十年ほど経つてからが、最も使うに適している。		6
二 問一	<ul style="list-style-type: none"> <li>書の表現の多様性に気付かせたり、書の表現性や表現効果について理解を深めさせたりするために、表現の工夫の観点、書の表現性や表現効果等について指導するに当たり、教科書や配布資料等と併用し、プロジェクトを用いての大画面投影や、ICT端末で具体例となる様々な作品や印稿を効果的に提示・共有する。</li> <li>表現における技能面での課題や成果を実感的に捉えたり、構想・工夫に生かしたりするために、ICT端末（撮影機能あり）を使い、生徒自身が制作している過程での運刀の様子を撮影した動画と示範動画とを比較したり、生徒個々が必要とするタイミングで視聴したり、スロー再生や繰り返し機能等を使って自身にとって効果的な方法で視聴したりする。</li> <li>自身の学習についてまとまりをもって振り返り、学習を通して身に付けてきた知識及び技能の蓄積と、見方・考え方の働きを捉え、見通しを立てて次の学習へつなげるために、制作した印影の画像や、構想や表現の工夫の過程、意見交換の経緯等をデジタルポートフォリオとして記録・蓄積する。</li> </ul>		各 8×3	40
	 <ul style="list-style-type: none"> <li>文字を右から左へ配置する。</li> <li>図版の字形そのままでなく、印面の大きさに合わせて、適切な大きさに拡大・縮小する。</li> <li>篆書の字形の特徴を理解し、文字のバランスを整える。</li> <li>横画は水平にする。</li> <li>字形は紙長で、原則として左右相称にする。</li> <li>起筆は藏峰の表現となるようにする。</li> <li>線の太さは一定で、抑揚のない表現とする。</li> <li>字形の特徴を合わせる。</li> </ul>			
二 問二				

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]			採点上の注意	配 点
単元目標	次	配当時間	学習活動	指導上の留意点	
三			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「風信帖」の線質、字形や構成を生かした表現を身に付ける。(A (2) ウ (イ) 技能)</li> <li>・行書体や「風信帖」の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について思考し、表現することができる。(A (2) ア (7) 思考・判断・表現)</li> <li>・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりを概念的に理解することができる。(B (1) イ (ア) 知識)</li> <li>・行書体や「風信帖」の線質、字形、構成の特徴を生かした表現を身に付けようするとともに、書風の表現効果について考えながら、幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)</li> </ul>	問い合わせ正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。	8
	一	一時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「風信帖」を鑑賞し、特徴を理解する。</li> <li>・「風信帖」と空海について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨格のしっかりした線質で、文字の大きさや線の太細の自然な変化があることに着目させる。</li> <li>・抑揚を利かせた用筆や筆脈により、自在に変化する文字の姿に着目させる。</li> <li>・「風信帖」と空海について、逸話なども交えながら説明し、興味・関心を高めさせる。</li> </ul>	
	二	二時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行書の特徴を理解する。</li> <li>・「雲書」を半紙に臨書する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行書の特徴を思い起こさせ、運筆法や筆路を理解させる。</li> <li>・点画のつながりを意識しながら、連続の変化が明確な運筆で臨書させる。</li> </ul>	40
	三	三時間	<p>「披之闇之如揭雲霧」を半切二分の一に二行書きで臨書する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨書する文字を観察し、筆脈と抑揚、それに伴う点画の丸み、連続や省略、筆脈の変化を確認させる。</li> <li>・筆脈や筆圧により生じる線の太細の変化や抑揚を意識して臨書させる。その際、つまずきのある生徒に対しては、筆の穂先の使い方等、個別に指導を行う。</li> <li>・毛筆の練習において日常的に使用する半紙を用いることで、用筆・運筆の基礎を反復練習させる。</li> </ul>	32
四	四	二時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の構成について理解する。</li> <li>・「披之闇之如揭雲霧」を清書し、自己評価する。</li> <li>・清書作品を鑑賞する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙面と文字の調和を図るために、文字の大きさとその配列、余白との関係に配慮する必要があることを理解させる。</li> <li>・「風信帖」の特徴を理解し、自己の作品と比較しながら、筆脈や全体の構成に気を付けて清書させる。</li> <li>・自己評価する際に、他者の作品を鑑賞し、言語活動を通して、線質、字形、構成等の要素と表現効果について言葉で表現し、考えを伝え合い深めさせた上で評価させる。</li> <li>・創作活動につながる規格として、多字数を収めやすく、扱いやすい半切二分の一を用いる。</li> </ul>	
	問一		<p>「A表現」の「(1)漢字仮名交じりの書」、「(2)漢字の書」、「(3)仮名の書」及び「B鑑賞」の全ての領域・分野の学習活動を通してという意味であり、書道の多様な表現と鑑賞の活動を通して学習を進めるこを示している。</p>		内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてよい。
	問二		<p>人が芸術作品を目前にしたときに自らの感性に触れて覚える最初の感懐、すなわち直感的鑑賞によるよさや美しさの把握から、その根柢や価値を考えることによって、そのよさや美しさを捉える分析的鑑賞に発展させ、その印象をもたらす諸要素に関わる様々な視点から、生徒自身が作品を捉え、対象がもつ表現効果や風趣を捉えることができるよう指導する。</p>		内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてよい。
四					10
					20
					10